

令和3年度 筑後市立筑後保育所 自己評価結果

「保育所保育指針（平成29年3月告示、平成30年4月施行）」（以下「保育指針」という）において、保育士等及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務として位置付けられています。また、筑後市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例でも、特定教育・保育施設は、自らその提供する特定教育・保育の質の評価を行い、常にその改善を図らなければならないとされています。このことを踏まえ、筑後保育所では保育の質の向上を図るために自己評価を実施しました。

自己評価を通して、自分たちの保育のよさや課題に気づき、次の保育計画へ活かしていくことで、より良い保育を提供し、保護者の皆様や地域の皆様との信頼関係がより良く、より深まるよう努めてまいります。

【評価のねらい】保育指針で示された方向性に沿った保育ができているかどうかを評価して、保育指針の改定内容の理解を深めるとともに、保育の改善に活かす。

【評価項目】①指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で評価する。

②保育の実施及び保育所運営に関する項目

【評価の判定】 ①については下記の基準で評価する。

- ◎=10の姿の方向性につながる活動ができている。
- =10の姿の方向性に沿っているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=10の姿の方向性を意識した活動ができていない。

②については、

- ◎=できている。
- =ある程度できているが、充実・改善等を要する点がある。
- △=ほとんどできていない。もしくは、できていない。

【評価方法】評価項目について、個々の保育士、職員が評価を行い、評価結果を持ち寄り、保育所としての自己評価を決定する。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について

保育所保育指針第1章「総則」に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保育所保育指針第2章「保育の内容」に示されたねらい及び内容に基づいて、各保育所で、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が育まれている子どもの具体的な姿であり、特に小学校就学の始期に達する直前の年度の後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ子どもの自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての子どもに同じように見られるものではないことに留意すること。

<p>健康な心と体</p>	<p>保育所の生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>
<p>自立心</p>	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>
<p>協同性</p>	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>
<p>道徳性・規範意識の芽生え</p>	<p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>
<p>社会生活との関わり</p>	<p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、保育所内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>
<p>思考力の芽生え</p>	<p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>
<p>自然との関わり・生命尊重</p>	<p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>
<p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p>	<p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
<p>言葉による伝え合い</p>	<p>保育士等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
<p>豊かな感性と表現</p>	<p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>

1. 保育指針に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、保育実践を振り返り評価する。

1	健康な心と体	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は建て替えの関係で園庭が無かったり、コロナの関係で園外保育を制限したりしていたことから、例年よりは少なくなったが、体を動かす活動を通じて健康な心と体を作ることができた。 ・リズムによって体をできるだけ動かすことにより、満足感を持つ子になっている。また、散歩を通して、横断歩道の渡り方や車が来たら止まる、道路のわきによるなど声掛けして、安心・安全、丈夫な体を育てることを意識している。 ・保育所でのすべての場面で、子どもが安心して活動できる環境を作ってあげる。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園舎や園庭の工事があり、園の敷地内では十分では活動できなかったが、その分園外に散歩に出かける機会を増やし、あぜ道でマラソンをしたり、公園で遊んだりして、体を使った活動は十分できたと思う。集団あそびをする機会をもっと増やすべきだった。 ・行事後など絵を描く時間を作り保育を行うと絵に経験したことや、体験したことが現れてきた。進んで描きたいという子も増えた。 ・薄着の生活を心がけ、なるべく園外へ出掛け、思いっきり体を動かして健全な体作りを行っている。毎日、朝の身支度から帰りの準備まで繰り返し生活していく中で、子どもたち自身も、一日の見通しを持ち、安心して生活できている。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内での生活では、広い保育室で全身を使いリズムなどで、身体を動かすことができた。園外活動ではかけっこしたり、滑り台での順番待ちや譲り合いなど友達を思いやる気持ちも知らせていくようにした。見通しが持てるように声掛けを行うように心掛けた。 ・日頃のあそびの中で1歳児クラスのリズムに参加して、大きい子の動きを見て真似てみようとする。 		
2	自立心	評価 ○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年齢に応じて荷物の整理や衣服の着脱など身の回りのことが自分でできるようになっている。 ・子どもたちの自立心を育むために子どもたちが自分で考え、行動できるように、必要なことを分かりやすく教える。 ・年齢に応じ、少しでも自分で取り組もうとする意欲を後押しするような言葉かけ、環境整備に心掛ける。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるようになり自信をもって何時間も課題に取り組み、子ども自らもう一度やりたいと楽しんで参加してくれた。 ・一人ひとりの意欲を大切に、保育士自身も見守るように心がけて、できない所は一緒に行き、やり方を伝えて、子ども自信が達成感を味わえるように関わっていった。また、運動あそびを通して、できないことにチャレンジし、諦めない心を学んだ。 ・睡眠、食事、トイレ、衣服の着脱などの基本的な生活習慣が日常繰り返され、ほぼ身につき、自分でしようとする意欲が育っている。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の生活の流れの中で、オマルでの排泄や食事の準備など、声をかけながら継続して行き、保育士が子どもたちの状況をよく観察し、認めていくことで、子どもたち自身が少しずつ自信をつけ、成功体験を積み重ねていくことが、子どもの発達自立につながると思われる。 ・荷物の整理や衣服の着脱など身の回りのことは積極的に取り組んでいる。また、様々な活動の中で、 		

自分で工夫したり、自分の考えを伝えようとしている。
 ・友達との遊びの中で玩具を取り合いにならないよう、言葉の使い方を一つ一つ伝え友達との会話の中から遊びを広げられるように一人ひとりに伝え促している。また、自分の気持ちをスムーズに伝えられるよう、場面ごとに促している。そのため、「かして」「どうぞ」が言えるようになっている。

3	協同性	評価
		○

《共通》

- ・運動会の目的や願いを共有する中で自分の役割を考えて行動していると思う。また、走ったり、転んだ子には大きな声で「がんばれ」の声掛けを心掛けており、チームワークも協同性につながってる。
- ・友達と遊んだり、運動会などを通じて、友達を認め、応援したり、一緒にやり遂げようという気持ちが育っていくことにつながる。
- ・子ども同士の協調性や関係づくりがうまくできるよう、子どもの考えを受け止め手助けしていく。

《3歳以上児》

- ・障害がある子がいるクラスでは、言葉がなくとも相手の思いや考えをくみ取って関わるできるようになっている。
- ・友達同士の関わりが深くなり、「一緒に遊ぼう！」と声を掛け、数人で集まって遊ぼうとするようになってきた。その中で、自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いたりしながら、遊びを自分たちで膨らませながら発展させることができていた
- ・作品を作るなど友達と一緒に共同作業をするときに、考えたり、工夫したり、協力したり仲良くできている。

《3歳未満児》

- ・友達と一緒に遊ぶことで、ぶつかり合いながらもお互いの気持ちに気づき、一緒に作ったり、見立て遊びを楽しんだりすることができている。
- ・友達の意見を聞くこともできるが、まだ自己中心的な子が多く、おもちゃの貸し借りが難しかったり友達の後をただ追いかけて回っている子が多い。自分たちで話し合うことが難しい為めもめごとの時には間に入ってお互いの意見を伝えるようにしている。
- ・乳児クラスでは、歌や絵本の読み聞かせなどを通し、同じ場面で笑ったり、顔を見合わせるといったことで気持ちを共有する嬉しさを感じたと思う。

4	道徳性・規範意識の芽生え	評価
		○

《共通》

- ・園庭が使えないなど様々な制限のあった旧園舎の時には、普段と同じ活動ができないがゆえに、友達ともめたりしながらも、自分達なりに様々なルールを作って遊ぶ姿をいつも以上に見ることができた。
- ・友達との交わりの中で、ぶつかり合い、その場を学びの場として捉え、月齢に合わせた話の仕方を工夫する。
- ・集団生活の中で身につけてほしいことを、繰り返し生活の中に取り入れていく。

《3歳以上児》

- ・友達とかかわりながら遊ぶ中で、けんかしながらも、友達に優しくすることや我慢することなどの体験が道徳心を育てている。
- ・年長児という意識が高くなり、異年齢児問わず、特に未満児の子に優しく接する姿が多くみられる。泣いている子や困っている友達がいると、声をかける姿もよく見られるようになってきたと思われる。
- また、ルールを守らないとどうなるかも、友達同士で、まずは話し合い、折り合いがつかない時だけ、個別でじっくり話すなどして、経験の場を作っていくことが大切だと思われる。
- ・ルールのある遊びを通じて、ルールを守ったり、分からない友達に教えてあげたり、友達と協力したりする。

<p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだ言葉はでないが、保育士が気持ちを代弁し、言葉を丁寧に添えていくことで、子どもたちの中に様々な感情が芽生えてきている。 ・していいこと、悪いことの区別はついていますが、部屋の中を走り回ったり悪いことにつられてしまう子が多くいる。クラスでルールについて話す場を設ける必要があると思う。 ・子どもたちが、トラブルになった時は、子どもたちの話を聞き「こうされたらどう思うか」「どうしたら嬉しいのか」一緒に考え、聞くようにし、良いこととやってはいけないことの両方を伝え、子どもたちにどっちだったらいいのか考えるよう伝える。そして、それを伝えた後、必ず抱きしめ背中を押すようにしている。 		<p>評価</p> <p>○</p>
5	<p>社会生活との関わり</p>	<p>評価</p> <p>○</p>
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年であれば、園外保育や行事を通じて社会生活との関わりを持つことは一定程度できていたが、コロナの関係があり、外部と接する行事はほとんど中止となり、社会生活との関わりを意識した直接的な保育や活動はあまりできていない。 ・散歩で子どもたちと歩いているときに、近所の方や地域の方に会った時は、自ら進んで挨拶をするよう心がけている。 ・コロナ禍の中で地域の人との触れ合いが難しい現状、保育士との関わり、友との関わり、小さい子との関わり等大切に育ててあげる。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園で遊ぶ時は、遊具を大切に使ったり、遊びに来られる地域の子にも譲ったりすることで、社会とのつながりを意識するようになる。 ・散歩で行き交う人に挨拶をするなかで社会とのつながりをもつことができた。交差点では、右左を見て渡ったり、信号では、青になったら渡れることを学ぶことができた。 ・警察署や消防署に散歩に行くことにより、自分たちの住む地域の良さを感じ、より親しみを感じていると思う。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外に出る機会が増え、散歩で地域の人と挨拶を交わしたり、公園での遊び方や利用の仕方について話したりし、子どもたちも保育者と共に意識するようになった。 ・今年はまだ行事ができなかったが、行事（もちつきなど）に参加することで、少しだけ社会生活との関わりにつながっていると思う。 		
6	<p>思考力の芽生え</p>	<p>評価</p> <p>○</p>
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水、砂、土に触れて遊んだり、小麦粉、片栗粉を使って感触遊びをしたり、物の変化を五感を使って感じるにより、思考力の芽生えにつながる。 ・制作時、色々な物を使い作り上げることで、様々な物に触れることができた。その中で、自分で考える機会も与え、自ら考えたアイデアが見られた時は、全員の前で取り上げることも行った。 ・積み木やブロックなど子どもが創造して遊べるおもちゃを用意し、「どのブロックが必要なのか」積み木を高く積むにはどうすれば良いのかなど遊びの中から、子ども自身が考えたり気づいたりすることが、思考力の芽生えに砂がると思う。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段のごっこあそびや見立てあそびなど様々な場面でも見ることはできるが、特に、園庭が使えない旧園舎の時には、場所や物がない中で、子どもたちなりに考え、工夫しながら様々な活動をしている姿をみることができた。 ・自分と異なる意見の場合、保育士が仲立ちして、色々な意見があることを子どもたちに伝えることはできている。自分の意見を通そうとする子や、聞き入れられない子もいるが、伝え方をその都 		

<p>度変えるなど、臨機応変に対応できていると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各行事に使う材料には、身近な廃材を使ったり、散歩に出かけて摘んだものや拾ってきた木の実を使って、考えたり、工夫しながら、作っている。また、遊びの中でも、それぞれ登場人物を決めて、試行錯誤しながら、あそぶ姿も時折見られる。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの『気付き』に保育士が気付き、言葉を添えたり、共感したりしていくことは、今後の子ども自身が考えたり、行動したりすることに影響していると思う。 ・季節の移り変わりの中で葉の色の変化や雲の形の変化など自分が感じたことを積極的に話し、友達と共有することで、さらに興味を広げることができている。 ・読み聞かせや製作、散歩を通して成長している様子が見られる。 		評価
7	自然との関わり・生命尊重	○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外保育の際に園周辺の自然に触れる機会を多く持っている。また、今年は建て替えやコロナで例年ほどではないが、野菜の栽培、収穫、調理という一連の活動を通じて野菜（植物）に対する興味・関心を持つことができた。 ・戸外活動、散歩の途中で季節の移り変わり、自然の変化に気づいたときは、言葉がけをしたり、製作では、葉、木の実などの自然の物を使い思い思いに表現して楽しめるようにする。 ・自然に触れて、興味を持つことがたくさんあると思います。動物や植物をかわいく思ったり、育てたり、命あるものを大切にすることもたくさん学んでいると思います。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外あそびや散歩を通して、季節に応じての自然の変化を一緒に見たり、感じたりすることができた。子どもたち自身も興味、関心を持ち、気持ちを共有することができた。旧園舎では毎日ダンゴムシを見つけては、命があることを理解し、大切に扱う姿が見られた。 ・保育所では、植物を育てたり、生き物に触れる機会も多く、疑問に思ったことなどは、保育士や友だちに聞いたり、図鑑や本で調べたりと、意欲的に取り組んでいる。 ・金魚やカブト虫を世話をしたりする中で、命あるものを大切にすることを身につけていると思う。 <p>《3歳未満児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩途中で見つけた草花や虫たちと一緒に観察したり、風で揺れる木々を眺めたりすることで少しずつ様々な関心を広げていっている。 ・年長が育てている野菜に興味を持ったり、虫を見つけたら捕まえて葉っぱなどを入れて観察する子もいた。一方、手で虫を強く握り死んでしまったり、咲いている花をちぎったりする姿もある。命があるということを伝える必要がある。 		
8	数量・図形、文字等への関心・感覚	評価
		○
<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で、多い少ないなど比べたり、時計を使ったり、数を数えたりすることで、身近にある数字や文字に興味を持ち、親しみを持つと思う。 ・子どもが関心を示した時、数量、文字に親しめる環境作りが大切。室内では、時計、カルタ、数字ブロック、積木等々、子どもの興味を大切にしている。 <p>《3歳以上児》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で数を一緒に数えたり、物の大きさを比べたりして、数の感覚を身につけている。文字に関しては絵本の読み聞かせを行う中で関心を持つようになる。 ・絵本の読み聞かせをしたり自分たちで文字を目で追ってみたり、かるたあそびをして文字に興味をもつようになった。 ・絵本の読み聞かせや帳面を片付けることで、自分の物が認識できる。時計を見て活動する、お話を 		

したり、遊びの中で「何人組を作って」と取り入れ数を意識したりする。

《3歳未満児》

- ・室内玩具も限られているため、図形や文字にふれる機会が少ないが、園外では木の枝の数を数えたり、葉の形を見立てたりと遊びに取り入れた。
- ・日常生活の中で〇個あるねと言葉出してみている、散歩中標識に興味を持つ子がいる。

9	言葉による伝え合い	評価
		○

《共通》

- ・絵本や紙芝居を読む時間を多く持ち、途中での子どものつぶやきにも耳を傾けたり、みんなと話すことで伝え合いを楽しむことができた。
- ・毎日、絵本や紙芝居の読み聞かせをすることで、豊かな言葉が身についていると思う。ごっこあそびや模倣あそびを通して、言葉のやりとりを楽しめるようになっている。

《3歳以上児》

- ・保育士に自分の思いを自らすすんで話してくれたり、友達とのあそびの中でも自分の思いを言葉にできる。
- ・日頃より、時間を見つけて、グループに分かれての、伝言ゲームを取り入れている。聞く力や伝える力を少しずつ身に付けていけるよう心がけている。また、集団の中でも、話せる場面を作ったり、自信を持って話せる機会を増やして行きたいと思う。

《3歳未満児》

- ・絵本や手遊びを通して、楽しみながら言葉のやりとりも楽しめるようになってきた。
- ・まだ上手に言葉で表せない子どもでも伝えたいことに耳を傾けるようにし、必要に応じて保育士が援助し、気持ちを代弁する。

10	豊かな感性と表現	評価
		○

《共通》

- ・描画や様々な制作物を作る中で、感じたことを表現する過程を楽しんだり、表現する喜びを味わったりすることができている。
- ・美しいものやさしいもの、心動かすでき事に触れ、感動する、感性豊かな姿を育てることにつながっている。
- ・七夕飾り、クリスマス飾り、凧作り、鬼のお面づくり、ひな人形など、自分の思い思いに製作を楽しみ、友達とは違う自分の作品を作り、友達の物にも興味を持ったりする。

《3歳以上児》

- ・楽しい経験をし、感性を豊かにすることにより、自分の思いをしっかりと腕を動かして描ける広さの紙にマジックを使ってのびのびと描ける。
- ・子どもができるようになったことなどは、保育士も表現豊かに喜び、子どもが自分の気持ちを出せるように配慮できていると思う。
- ・泥んこあそびや、水あそびなど保育士も一緒になって遊ぶことを楽しみ、子どもたち一人ひとりが表現することを喜び、それに寄り添える心を大切にできていると思う。また、描画でも個々に表現できていたと思う。

《3歳未満児》

- ・自分が経験したことや思いを意欲的に話し、表現することができている。また、一緒に見立て遊びを楽しみ楽しい経験を友達と共有することができている。
- ・リズムの時間は、友だちが楽しんでいる様子を見て自分もやってみようとする姿がある。リズムの時間は個々の表現する場が持てるいる。
- ・遊びや生活の中で、美しいものを見たり、うれしいことが、あると一緒に喜び、表現できるようにしている。

2. 保育の実施及び保育所運営に関する項目。

1. 子どもの権利

近年、多文化の共生や、家族形態の多様化、子どもの特性などの状況を踏まえ、より一層、一人ひとりの子どもに寄り添う保育が必要になっています。また、子どもの成長を的確にとらえ、子どもの心情に十分配慮しながら、安心して生活できる環境を提供することが大切です。

一人ひとりの生活習慣や文化などの違いを知り、それを認めあう心を育てるよう努めている。	○
おむつ交換やトイレ、着替え（プール含む）の際は、全裸で放置されることのないよう配慮し、他者の視線を遮る工夫をしている。	○

2. 職員に求められる資質

保育の質の維持・向上を実現する基本は、職員一人ひとりの資質です。職員が職務に責任感を持ち、子どもや保護者の見本となる人権感覚や倫理観を持ち、保育技術や知識を高める意欲がなくてはなりません。

保育指針を十分に理解し、日々の保育実践に活かしており、向上心を持って取り組んでいる。	○
研修、書籍、他園との交流等から、自身の保育の課題や不足している知識・技術の習得の機会を 持とうとしている。	○

3. 保育環境

保育施設は、子どもが快適に心地よく生活できる環境を整えることが大切です。思いきり身体を動かす活動ができる環境、遊びこむことができる環境、くつろげる環境、身近な動植物や自然事象に接する機会など、子どもが興味・関心を持ち、関わりたくなるような保育環境が重要です。また、常に子どもの健康と安全に気を配り、子どもが安心して安全に過ごせる環境を保育施設全体で整える必要があります。

施設内の設備・遊具等の点検が行われ、点検に基づき危険個所の整備が迅速に行われており安全な保育環境が保たれている。	○
施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、イスやテーブルなどの子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。	○

4. 保育内容

保育施設における保育の特性は「養護と教育の一体的な実施」であり、子どもと生活を共にし、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を身に付けていけるように保育を展開します。

職員全体が、めざす子どもの育ちの道筋、子ども像を共有している。	○
---------------------------------	---

5. 生活と遊びの中の教育

子どもたちは、遊びを通して言葉や数、表現する力などを身に付けていきます。

乳幼児期においては、言葉かけやスキンシップ、成長発達に応じた様々な玩具や絵本との出会いや子ども同士の関わり合いなど様々な体験を通して、意欲・関心を培い、未来へ向かって生きる力を育むことが重要です。

周辺施設や地域と連携する等、子どもが地域社会の中で活動範囲を広げるための取り組みを行っている。	○
---	---